









114  
A 2538

大正十一年四月  
限侯爵郵寄

新法ヲ實施スルニ付便宜法ヲ設クハキ條件



訟費ノ金額 四人議送費及控訴裁判所々在ノ地ノ  
獄舎ニ滞在スル費用ヲモ含蓋ス

ヲ算定シテ豫納セシム若シ豫納セラル時ハ控訴上

告ヲ為スヲ許カス但檢察官ハ訟費豫納法ヲ違

用シ難シ故ニ裁判ノ失誤是レキモノニアラカレハ濫

控訴上告ヲ為リル旨司法御ヨリ訓セシム 治罪法三  
條以下同三百六  
十五條以下參看

(理由) 訟費豫納ノ制アリシテ汎然上訴ヲ許ス時ハ

濫訴踵ヲ起リ裁判所ノ煩勞是レノ訟費金額亦頗

一

訴訟費用  
ハ忍ビサル  
所ノ會議  
ヲ以テ左  
控訴  
為ス  
會議  
メタ



大正十一年四月  
侯爵邸寄附

法ヲ設クハキ條件

原裁判所ニ於テ其訴

又控訴裁判所々在ノ地ノ

ル費用ヲモ含蓄ス

豫納セラル時ハ控訴上

ヨリハ其費用豫納法ヲ違

レキモノニアラカレハ違

ヨリ同訓セシム治罪法三

百三十八

レテ汎然上訴ヲ許ス時ハ

尚是レノ訟費金額並願

訴訟費用金ヲ豫納セサル時ハ控訴及ヒ上告ヲ為スヲ許サストスル

ハ忍ビサルコトニシテ且法律ノ躰面ニ於テモ甚瑕瑾ヲ生ス故ニ原裁判

所ノ會議局ニ控訴ヲ為サシムル時ハ大ニ訴訟費用ヲ減少スルニ足ル

ヲ以テ左案ノ通御制定相成候方可然存候

控訴裁判所々在ノ地ヲ除クノ外控訴ハ原裁判所ノ會議局ニ之ヲ

為ス可シ

會議局ニ於テハ總テ控訴裁判所ニテ控訴ノ裁判ヲ為スニ付定

メタル規則ニ從ヒ其公判ヲ為ス可シ



ル莫大ナリ故ニ濫訴ヲ防ク為メ、証費豫納ノ制ヲ設ク

原告被告、於テ具證人ノ呼出ヲ請フ時ハ裁判所、於テ證人出庭ニ付テ、旅費日當ヲ算定シテ之ヲ豫納セシム  
治罪法百七十條  
同百九十四條參看

(理由) 證人呼出費豫納ノ制ヲ設ク時ハ資力ナキ者濫シ證人ノ呼出ヲ請ヒ具費用ハ遂ニ官ノ損失トナルニ至ル故ニ呼出費豫納ノ制ヲ設ク

違警罪裁判所、在リ地ヲ除ク、外違警罪ノ處断ハ之ヲ地方警察署ニ委任ス但具處断<sup>新</sup>ハ從前ノ通り簡便ヲ主トシ且具言渡ニ付テハ控訴上告ヲ許ス  
治罪法百二十一條  
以下參看

(理由) 警察署、於テ鄭重ノ法式ヲ用テ裁断ヲ為スルハ實際行ハシ難シ故ニ別ニ簡便法ヲ設ク又違警罪ノ裁判ニ對シ控訴上告ヲ許スハ理ハ即テ理ナリト虽且却テ鄭重ニ失シ不便ヲ生ス故ニ之ヲ許サス

密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル者ハ地方ノ未決監ニ拘置ス  
治罪法百四十三條  
以下參看

(理由) 密室監禁ハ下調中大獄疑獄ニ涉ル者ノ他囚ト聲息相通シ事實ヲ隱蔽スル等ノ害ヲ防クニ在リ故ニ一囚ヲ一房ニ監禁ス是レ現今既ニ行ハル所ノ法ニシテ曩ニ高知縣人難獄等ノ時ニモ亦此法ヲ用ヒタリ蓋シ是レ稀レニ用ル所ノ法ナルヲ以テ其監禁室ハ未決監中ノ房室ヲ用ヒ別ニ構造スルヲ要セザルハシ



四 禁獄ノ囚ハ其重禁獄ト輕禁獄トヲ別ク之ヲ同盟ト  
拘置ス輕重懲役及重禁錮ノ囚ハ監房ノ都合ヨリ  
之ハ之ヲ別異セラルモ妨ケナシ 刑法ニ十三條  
參看

(理由) 重禁獄輕禁獄共ニ國事犯ノ刑ナリ故ニ之ヲ  
同盟ト拘置ス輕重懲役及重禁錮ハ輕重ノ差著  
アリト雖共ニ定役ニ服スルノ囚ナリ故ニ之ヲ區別シ  
テ拘置セラルモ妨ケナシ

輕禁錮ノ囚ハ重禁錮ノ囚ト別異ス 刑法ニ十四條參看

(理由) 定役アル者ト定役ナキ者トヲ別ニスルハ犯罪ノ  
性質異ラテテテリ

島地ニ發遣スル囚徒ト雖地方獄ニ在ル間ノ費用ハ  
地方税ノ負擔セシメ其他ノ護送費等ハ官費トス

(理由) 島地ニ發遣スル囚徒ト雖地方獄ニ在ル間ノ  
費用ハ地方税ノ負擔セシム是レ地方監獄費ハ地方税ヲ  
以テ支弁スルモノナルヲ以テナリ然レ島地發遣ノ護送  
費等ハ官費トスルヲ允當トス且其囚徒ノ員數ハ概テ別  
表ニ掲載スルヨリ之ヲ格別ノ費用ヲ要セス  
竊盜及賭博犯人ハ禁錮ノ日數ヲ杖數ニ折算シ答杖實決  
ヲ用フルヲ許ス

(理由) 囚員填塞獄舎狹キヲ告ク是レ今日ノ通弊ナリ  
故ニ之ヲ防ク為メ盜罪賭博犯等其百日以下ノ刑ニ該  
ル者ハ現今同々之ヲ答杖ニ換ヘ實決ヲ用テ一別紙甲牌  
書參看) 故ニ新法實施後モ當分便宜ニ之ヲ用フル

五  
ヲ許ス



重罪被告人弁護人ヲ撰任スルヲ能ハサルニヨリ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ撰任スル時ハ其裁判所所屬ノ代言人ノ順當ヲ以テ義務トシテ之ヲ行ハシム

(理由)重罪被告人ハ大抵無資力ニシテ弁護人ヲ撰任スルヲ能ハサル可シ官費ヲ以テ弁護人ヲ附スル時ハ其費用亦大ナリ故シ代言人ノ順當義務トシテ之ヲ行ハシム

重罪被告人ハ可成拘留ノ刑ヲ科セムニシテ科料ノ刑ヲ用ヒ即時ニ決放スルヲ要ス刑法四百二十五條以下參看

(理由)重罪犯人ハ犯罪中情状最輕キモノトシテ以テ可成身體ヲ拘束スル拘留ノ刑ヲ用ヒムニシテ單ニ科料ヲ徴收シ直ニ之ヲ放還スルヲ要ス然レバ拘留所ノ囚員ヲ減シ且

ツ他人モ其責ヲ得事甚タ便ナリ依テ司法卿ヨリ訓條ヲ下シ其意ヲ裁判所ニ傳ヘシム

警部アラカル地ノ戸長司法警察ノ職務ヲ行ノ區域ヲ狹縮ス治罪法三十一條參看

(理由)罪人ヲ俾免セリラシメントスルハ警察ノ組織ヲ周密ナラシムルハ若クハナシ警察組織ヲ周密ナラシムルハ警察官吏ヲ増多スルニ如クハナシ是レ治罪法第六十條ニ於テ警察官吏ヲ記列シ戸長ヲモ其中ニ加ヘタル所以ナリ蓋シ告訴告發人ヲシテ必ス裁判所又ハ警察署ヨリ出テ其訴告ヲ為ス可シトスルハ距離遠隔ノ地ニ於テハ往々其煩ヲ厭ヒ棄テ顧ミサルノ患ヲ生スルニ至ラン然レト告訴告發ハ戸長ノモ亦之ヲ為スヲ得ルトスル時ハ事



是々便宜、遠く又急遽ノ場合、於テハ換戻處  
 分ヲモ便宜ニシテ為カシノカレハ實地不都合ヲ生ズルニ  
 至ラン 警部アラカル地ノ戸長司法警察ノ職務ヲ  
 行フハ是等ノ事付ニ上ルモノニシテ其他ノ警察職務ヲ  
 ハ戸長ヲシテ負擔セシマス(司法卿ヨリ別業上申アリ  
 管轄裁判所(即チ犯罪地ノ裁判所)ヨリ囑託アル時ハ被告  
 人ヲ逮捕シタル地ノ裁判所ニ於テモ亦裁判管轄タルコトヲ  
 治罪法四十  
 條參看

(一理由)犯罪ノ證據及證人等ハ多クハ犯罪ノ地ニ在テ  
 存スルモノナリ犯罪地ノ裁判所ヲ以テ裁判管轄ト定ム  
 ルハ事實檢證シ證人ヲ召喚スル等ノ便宜アルニ因ル  
 然レモ必ズ犯罪ノ地ノ裁判所ニ於テ裁判スト定ムル

時ハ或ハ被告人ヲ逮捕ノ地ヨリ犯罪地ノ裁判所ニ護  
 送セラル可カラサル場合アル可シ故ニ管轄裁判所ノ囑  
 託ニヨリハ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ニ於テモ亦管轄スル  
 コトヲ得

召喚狀送達使丁ヲ用ニス戸長ハ郵送スル議業  
 使丁ヲ使用スルニ其使用規則ヲ定メ裁判所ヨリ司法卿ニ  
 同出シム 治罪法二十  
 二條參看



